

August 2010

大阪大学図書館報

vol. 44 no. 1 通巻 172号

発行所 大阪大学附属図書館 2010年8月1日発行
 〒560-0043 豊中市待兼山町1の4
 e-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp



- 学生選書ツアーを開催 …P. 1
- 教員著作寄贈図書のご紹介 …P. 3
- News 図書館からのお知らせ …P. 4

学生選書ツアーを開催

学生選書とは「図書館にあったらいいな」と思う本を、学生のみなさんに直接、店頭やWeb上で選んでいただく企画です。昨年は、書店の店頭で本を手に取りながら選ぶ「選書ツアー」とWebを利用した「Web選書」をおこないました。4年目になる今年は、大阪大学未来基金の助成を受け、ジュンク堂書店大阪本店の全面的なご協力の下、選書ツアーを6月24日に実施しました。

ツアーには、附属図書館のウェブページ等を見て応募した学部・研究科の学部生及び院生16名が参加しました。2時間という短い時間でしたが、店内の書架を歩きまわり、本を手にする真剣な姿を見ていると、本当にみなさん本が好きなんだな、という気持ちが伝わってきました。

選書ツアーで選ばれた図書は、図書館の選書方針と照らし合わせ、購入の可否を決定します。選書結果は、次のウェブページで紹介していますので、是非ご覧ください。

(<http://www.library.osaka-u.ac.jp/gakusen/index.htm>)

秋には学生選書の第2弾「Web選書」を計画しています。こちらもぜひご参加ください。

なお、選書ツアーの参加者からツアーの感想と選んだ本についてのコメントをいただきましたので、紹介いたします。



学生選書ツアーに参加して

現在、私は大学院生なので、研究のために図書館・図書室をよく利用するのですが、必要な本に限って置いていなかったり、あったとしても、一冊しかなかったり、研究室に所蔵されていたりと必要な本がなかなか入手しにくい状況が続いていました。そんな時に、大阪大学の図書館やKOANで、図書館に所蔵する本を学生が選ぶ活動があることを知り、学生選書ツアーに参加しました。選書ツアーは、各図書館（総合図書館、生命科学図書館、理工学図書館、外国学図書館の4つ）ごとに選書メンバーの人数が決まっており、私は、吹田キャンパスにしながら、総合図書館をよく利用することから、総合図書館に配架する学生用図書の選書を希望し、採用されました。

選書の舞台になったのは、梅田にある堂島アバンザ内のジュンク堂書店でした。大きな本屋さんで、大阪駅で下車して、四ツ橋筋沿いに地下道を歩いて行くと約7分かかるところにあります。集合時間としてジュンク堂書店が開く10時前に、図書館のスタッフさんや選書メンバーと合流しました。選書にあたって、図書館スタッフさんから、制限時間が2時間で、一人あたりの予算の目安として5万円程度ということをお願いされました。そして、ハンディスキャナーという道具を使って、本に記載されているバーコードを読み取って、新刊本を中心に、総合図書館に所蔵していないものを選書しました。

私の研究分野は、インターネットなどの比較的新しいメディア領域を扱ったものなので、新刊本を把握しておくことは、自分の研究にとってかなり重要なことです。それゆえ、最初に、新刊コーナーを中心にインターネットに関する本を選んでいきました。ジュンク堂書店では、各ジャンルで新刊コーナーを設置しているので、目当てのものをを見つけやすく、早い段階で、欲しい本を選書することができました。また、私は選書ツアーに参加する前に、自分にとって必要であり、かつ、総合図書館に所蔵されていない本についてある程度下調べをしていたので、欲しい本は決まっていました。しかし、実際は目の前に多くの魅力的な本があるので、悩みに悩んで選書し、気がつくといった間に2時間経っていました。

以上、学生選書ツアーについて体験談を述べてきました。今回の学生選書ツアーについて、私が思うに、学生が主体的に大学の図書館に所蔵する選書をする機会というものはめったにないことだと思います。それゆえ、このような貴重な機会を提供して下さった大阪大学附属図書館に感謝したいと思います。

（千葉和矢 人間科学研究科 博士課程前期1年）

千葉さんが選んだ本（一部）

- ・D. ブーニュー著『コミュニケーション学講義：メディアロジーから情報社会へ』，書籍工房早山，2010
- ・デニス・マクウェール著『マス・コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会，2010
- ・大澤真幸著『〈自由〉の条件』講談社，2008
- ・宮台真司著『システムの社会理論』勁草書房，2010
- ・立岩真也著『ベーシックインカム』青土社，2010
- ・片桐新自著『不安定社会の中の若者たち』世界思想社，2009
- ・東浩紀編『思想地図（vol.2-5）』日本放送出版協会，2008-2010

私が選んだこの1冊

『失われた建築の歴史』Jonathan Glancey著，中川武日本語版監修，東洋書林，2010

図書館での旅が自身内部への旅とすれば、外部への旅とは現場へ出かけていくことでしょう。図書館で良質な書物と出会う醍醐味は、その内部(中身)が優れていて、かつ、自らを外部への旅に誘う本と出会えることです。この本は、世界の、人類の永遠に失った建築物140点以上を集め図版とともに紹介しています。さあ、出発しましょう。

いや、待ってください。この本に紹介されている建築物はすべて失われているのです。もう、現存していません。いわば、記憶の集積です。それらが逆説的に世界や建築物に対する想像力を強く刺激します。どのような建築が紹介されているのか。神話の建築(バベルの塔)、戦争によって失われた建築(ドイツ国会議事堂)、神の御業(ボンベイ・ヴェスヴィオ火山の噴火)から想像世界の建築(「2001年宇宙の旅」)、製図板に残された夢(スターリンのソヴィエト大宮殿)まで多岐にわたります。

われわれの歴史は空間認識、たとえば懐かしい建物や場所の記憶とともにあります。建築物が歴史遺産になることからわかります。世界史や日本史の教科書にはたくさんの建築物が登場し、各時代を規定しました。建築物にも寿命はあり、天寿を全うするものもあれば、短命に終わるものもあります。それを偉業と捉えるか儚さと受け止めるかは、各人それぞれでしょう。建築物と記憶について思いを馳せることができる大判の書籍です。

日本の近代建築について興味のある方は、

- ・『昭和モダン建築巡礼 西日本編』『昭和モダン建築巡礼 東日本編』宮沢洋・磯達雄、日経BP社、2006-2008
 - ・『失われた近代建築1 都市施設編』『失われた近代建築2 文化施設編』増田彰久・藤森照信、講談社、2009-2010
- がとてもおもしろいです。前者については現存の建築物が主に取り上げられているので、現場を訪れることができます。しかし、現在進行形で取り壊しが進行しているので、あるうちに見に行ってもあけてください。

このような大部かつ高額な書籍を選ぶ機会を与えてくださった図書館関係者の皆様にお礼申し上げます。

(Aさん 人間科学研究科 博士課程前期1年)

大阪大学未来基金とは？

大阪大学未来基金(大学)は、卒業生、保護者の皆様、学内の教職員、地域の市民や企業の方々からいただいたご寄付を基金として運用し、学生生活をサポートする事業に活用していきます。これからも未来基金では、学生のみなさんを応援する活動を進めていきます。ご期待ください!!



● ● ● 教員著作寄贈図書のご紹介 2010.Feb. ~ June ● ● ●

寄贈者氏名(所属) ※敬称略	書 名
玉井 暉 (名誉教授)	英米文学の可能性：玉井暉教授退職記念論文集
田野村忠温 (文)	コーパスを用いた日本語研究の精密化と新しい研究領域・手法の開発
石井正彦 (文)	4
Paul A.S.Harvey (文)	Manyoshu 365 (MTMM series)
	Saint Paul 200 (MTMM series)
	Songs for Islam (MTMM series)
	Songs 365 (MTMM series)
大谷順子 (人間科学)	災難後の重生：阪神大震災對高齢化社會的衝擊
	質的データの取り扱い
	人間の安全保障と中央アジア (比較社会文化叢書;18)
	BOP を変革する情報通信技術：バングラデシュの挑戦
	Older people in natural disasters : the Great Hanshin Earthquake of 1995
大前玲子 (人間科学)	箱庭による認知物語療法：自分で読み解くイメージ表現
中村安秀 (人間科学)	イラク難民への心理社会的ケア
	健康なアフリカ社会をめざして
	国際シンポジウム講義 世界に広がる母子手帳
	心理社会的ケアのあり方 (共生ワークショップ報告書；第3集)
	日本社会の課題解決における海外ボランティア活動の有効性の検証
	母子保健分野における国際協力の効果的方法に関する研究

寄贈者氏名（所属）※敬称略	書 名
福重元嗣（経済）	家計による社会的活動の計量分析
山口進康（薬）	難培養微生物の利用技術（CMC テクニカルライブラリー;344 バイオテクノロジーシリーズ）
	琵琶湖：その環境と水質形成
左海哲夫（工）	金属材料の加工と組織
鈴木毅（工）	住まいのりすとら = Restructuring of housing
長澤裕（基礎工）	謎解き超常現象 2
沖田知子（言語文化）	謎解き「アリス物語」：不思議の国と鏡の国へ（PHP 新書;668）
八木厚志（情報科学）	Abstract parabolic evolution equations and their applications (Springer monographs in mathematics)
谷口勢津夫（高等司法）	税法基本講義
中川敦史（蛋白研）	構造生物学：原子構造からみた生命現象の営み（これからの生命科学）
蛋白質研究所（蛋白研）	いのちのはじまり、いのちのおわり
山本仁（安全衛生管理部）	バイオ系実験安全オリエンテーション
太田妙子（保健センター）	大学における大麻・薬物問題とその対策：ガイドブック 2010
池田光穂（CSCD）	看護人類学入門
木ノ下智恵子（CSCD）	六本木クロッシング 2010 展：芸術は可能か？
	Aqua metropolis Osaka 2009 art documentation
栗本英世（GLOCOL）	コンゴ民主共和国東部における人間の安全保障の危機への理解（Glocol ブックレット;04）
	食料と人間の安全保障（Glocol ブックレット;03）
	多様性・持続性：サステナビリティ学教育の挑戦（Glocol ブックレット;02）
張淑儀（世界言語セ）	身につく広東語講座
角道正佳（日日セ）	土族語互助方言の研究



新しく導入したデータベース

附属図書館では、次のデータベースを新たに導入しました。ご活用ください。

■ HCPP (House of Commons Parliamentary Papers)

19/20世紀英国下院議会文書データベースを2月に導入しました。過去二世紀の英国の下院文書が検索できます。地域研究、歴史学、経済学、社会学などの研究に活用してください。

■ AnthroSource

American Anthropological Association (AAA) の提供する米国の代表的な人類学に関するフルテキストデータベースを2月に導入しました。

■ 人民日報 電子版

1946年5月15日から2010年2月3日までに発行された人民日報の記事の全文検索ができます。このデータベースが利用できるのは、外国学図書館の専用端末 1 台のみです。利用方法の詳細は、外国学図書館にお問合せください。



理工学図書館で図書館 TA による図書館ツアーと講習会を実施

理工学図書館では、6月14日から29日にかけて、図書館TAによる理工学図書館案内ツアーとミニ講習会をおこないました。

ミニ講習会は、OPACの検索方法・理工学図書館のサービス紹介・Webサービス紹介の3つのテーマでおこない、ツアー・講習会あわせて35名の方に参加していただきました。

理工学図書館では、秋にも図書館TAによる講習会を企画していますので、ぜひご参加ください。



新しく導入した電子ブック

附属図書館では、電子的情報基盤整備の一環として次の電子ブックを購入しました。この結果、学内で利用できる電子ブックは約7,000冊になりました。電子ブックは学内のネットワークから自由に利用できます。研究・教育・学習にご活用ください。

■ Springer eBook

2005年にSpringer社から出版された全タイトル、及び、2009年に出版されたBehavioral Science分野とChemistry and Materials Science分野のもの、約3,300タイトル

■ Cambridge eBook Collections

Engineering Release 3 Collection 137タイトルとPhysics Release 3 Collection 134タイトル

■ Oxford Scholarship Online

Biology 96タイトルとPhysics 154タイトル

■ CSH Monograph Archive, CSH Symposia Online

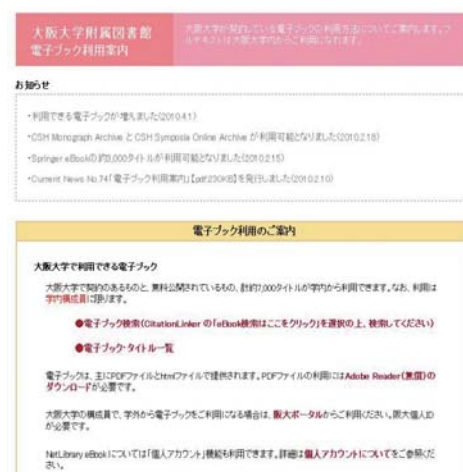
Cold Spring Harbor Laboratory が刊行してきた、生物学関係のモノグラフとシンポジウムの記録です。

■ Encyclopedia of Neuroscience

電子ブックのご利用は、電子ブック利用案内のページ、電子ブック・タイトル一覧のページからご利用ください。

電子ブック利用案内 http://www.library.osaka-u.ac.jp/ebook/eblist_intro.html

電子ブック・タイトル一覧 <http://www.library.osaka-u.ac.jp/ebook/eblist2.html>



春の図書館オリエンテーション

総合図書館では、4月12日から16日の間に新入生を対象として図書館の利用方法を説明する「20分でわかる図書館利用の基礎」を計10回、図書館ツアーを計5回おこない、延べ562名の参加がありました。外国学図書館では、4月6、13-15、22日に図書館ツアーをおこないました。

また、4月下旬から5月末にかけて、総合図書館TAによる自由参加型図書館オリエンテーションを4ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）でおこないました。



留学生オリエンテーション

総合図書館では、短期留学生を対象とした図書館オリエンテーションと図書館ツアーを4月8日に英語と日本語でおこないました。

留学生オリエンテーションは、昨年までは秋に1回だけおこなっていましたが、留学生の受入数が大幅に増加したことを受け、今年から春と秋の2回おこなうことになったものです。

また、外国学図書館でも、4月8日に日本語日本文化教育センターの留学生55名を対象に図書館ツアーをおこないました。





「情報活用基礎」で図書館活用法を説明（2010 年度前期）

全学共通教育科目「情報活用基礎」の1コマを使って図書館職員が図書館活用法について説明しました。前期は4月19日から5月13日にかけて、学内3ヶ所（サイバーメディアセンター豊中教育研究棟情報教育教室、法経大学院総合研究棟コンピュータ室、GSEコモン情報教育室）で、Web版として作成したテキストに基づいて図書館の概要を説明したあと、OPACの検索実習をおこないました。

附属図書館では、この説明を契機として図書館の蔵書がより活発に利用され、学習に活用されることを期待しています。



外国学図書館「雑誌論文の探し方」ガイダンス

外国学図書館では、5月27日と6月17日に卒業論文作成に役立つ文献調査法についてのガイダンスをおこないました。参考文献の読み取り方から文献データベースの利用法まで端末を使った実習形式で案内し、2年生から大学院生まで計46名が受講しました。

また、同内容のガイダンスを、教員の依頼を受けてゼミの授業の時間を使い、17回延べ235名に対しておこなっています（6/30現在）。



総合図書館でレポート書き方講座を実施

一年次生を対象としたレポートの書き方の基礎を身に付けるための「レポートの書き方講座」を大学教育実践センター 堀一成准教授を講師に、総合図書館ラーニング・コモンズで6月3, 10, 17日の3回にわたりおこない、延べ47名の受講生がありました。

広報期間が短かったにも関わらず、受講希望者は多く、また、受講者のアンケート結果から、論文の書き方・ライティング指導に対する潜在的な需要の高いことがわかりました。



データベース講習会を実施

データベース提供元から専門の講師を迎え、6月15日に化学のファクトデータベースである「Reaxys」の講習会を、6月24日に全学問分野にわたる引用文献データベースである「Scopus」の講習会をおこないました。

いずれも実際にデータベースの操作をしながら進めていく実践的な講習であり、とても好評でした。



大学教育改革フォーラム in 東海 2010 でポスター発表

3月13日に名古屋大学でおこなわれた標記フォーラムで、本学・ラーニング・コモンズでのセミナー授業の試みについて、大学教育実践センター 堀一成准教授と当館職員2名がポスター発表をおこないました。総合図書館では、ラーニング・コモンズ設置後、その活用方法を様々に検討・実施しています。今回のポスター発表では、ラーニング・コモンズでおこなった授業の内容、受講生の反応、今後の課題を報告しました。





総合図書館の施設・設備を整備

総合図書館の施設・設備を次のとおり整備しました。

■ B棟サイレントゾーンに個人学習ブース増設

日ごろから大変利用の多いB棟4階サイレントゾーンの個人学習ブースを2月末に10台増設し、計20台としました。あわせて閲覧机も増設した結果、B棟4階の座席数は150席であったものが172席となりました。



■ A棟に防犯カメラ設置

3月に総合図書館A棟に防犯カメラを設置しました。各階に設置されたカメラの映像がメインカウンターのディスプレイで確認できるようになっています。

■ マイクロ資料室に集密書架設置

マイクロ資料の保存環境整備の一環として、2月下旬に集密書架を設置しました。このことで資料の収容可能点数が増えました。また、マイクロ資料室内の温湿度管理をよりよくおこなうために、室内に設置していたリーダープリンターをC棟に移設しました。



外国学図書館・バリアフリー化工事

外国学図書館1階に多目的トイレが設置されました。身障者・子連れの方に利用していただきやすくなりました。あわせて隣接の男女用トイレも改修しました。



貸出用ノートパソコンの充実

貸出用ノートパソコンを外国学図書館に新たに6台、理工学図書館に追加で5台導入しました。理工学図書館では平成21年6月に4台導入していましたが、利用が大変多いことから今回の追加導入となりました。なお、総合図書館にも24台の貸出用ノートパソコンがあり、大変よく利用されています。



懐徳堂貴重資料の修復

財団法人大阪大学後援会平成21年度助成により修復していた「懐徳堂文庫」資料が、3月12日に修復を終えて総合図書館に戻ってきました。今回の修復では、文庫の中でも特に資料価値が高いもののうち、傷みの著しい屏風、卷子、額、和装本等32点を昨年5月から約10ヵ月かけて修復しました。なお、今回修復したものは、10月27日から12月20日に大阪歴史博物館において、懐徳堂記念会創立100周年記念「懐徳堂展—大阪「知」の源流—」が行われる際の展示品の有力候補となっています。

また、朝日新聞文化財団「文化財保護助成」をうけて修復された「帰馬放牛図」が、4月27日に図書館に戻ってきました。帰馬放牛図は、寛政8(1796)年に制作されたと伝えられています。当初、懐徳堂講堂の襖として使われていましたが、後に掛け軸に仕立て直されています。長年にわたる経年変化で資料全体に汚れや変色、損傷などが生じていましたが、今回の修復で往時の状態に近づけることができました。



附属図書館ウェブページの英語対応およびRSS配信開始

大阪大学がグローバル30に採択されたことを受けて、附属図書館でもウェブページの英語対応を進めています。英語対応ページは、作業の進捗にあわせ、随時公開していく予定です。

また、「図書館からのお知らせ」のRSS配信を4月1日からはじめました。次のURLから登録してください。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/rssnews/rss01.xml>



古典資料の取扱いにチャレンジ 洋古書編

吉備国際大学・鈴木英治教授を講師に迎え、標記研修会を2月26日に総合図書館でおこないました。研修会は、資料保存に関する一般的な講義からはじまり、その後、洋古書補修の様々な方法とその結果が実例に即して説明されました。また、資料の展示・保存・修復等の取扱い実習をおこないました。

今回の研修会は学外にも公開され、学内から29名、近畿地区の国公立大学図書館職員から51名、その他の機関から7名の計87名もの参加があり、資料の取扱いに対する関心の高さをうかがわせるものでした。



箕面 FM「まちのラジオ（大阪大学社会学連携事業）」で外国学図書館を紹介

タッキー 816 みのおエフエムの番組「まちのラジオ」で外国学図書館の概要や特徴、活動状況が紹介されました。

箕面市立図書館と外国学図書館は連携協力協定を結んでいますので、箕面市内に在住・通勤・通学している方々は、外国学図書館を利用することができます。

また、昨年おこなった石濱文庫記念講演会の様子などが6月10日に放送されました。



総合図書館キャンペーン

総合図書館では、新入生の方々に図書館を使う習慣をもってもらうため、4月から5月にかけて「図書館へようこそ！」キャンペーンをおこない、ポスターを掲示するとともに、図書館オリエンテーション、ライブラリーツアーを多数企画・実施しました。

また、図書館の利用マナー向上のため、6月から7月にかけて返却期限日を守るよう呼びかけるキャンペーンを進めています。図書館の本は、たくさんの人が利用します。本が返ってくることを心待ちにしている人がいます。返却期限日を守りましょう。

なお、返却期限日の確認は図書館ウェブサービスを利用すれば、いつでも簡単に確認することができます。利用方法は、次のURLをご覧ください。

http://opac.library.osaka-u.ac.jp/req/userguide_basic.htm



いちょう祭展示および総合図書館資料展示

総合図書館では、いちょう祭期間中（4月30日から5月1日）に施設開放と展示会をおこない、2日間で2,257名の入館者がありました。

「地図帳（アトラス）の源流～メルカトルとオルテリウス」と題した展示会には、総合図書館と外国学図書館に所蔵する古地図を計7点展示しました。観覧している方々は、現在の地図の形とかけ離れた古地図の地形やそこに記された見慣れない地名を楽しんでいるようでした。

また、図書館員による館内案内ツアーを計9回実施しました。

このほか、総合図書館ギャラリーゾーンでは、次の展示をおこなっています。

- ・4/1～4/27「文化勲章受章者の業績顕彰（大阪大学関係者）1」
- ・5/13～6/2「Adam Smith 没後220年」